

近世福井城下における寺町・寺院集積地の景観形成と地域性

The Landscape Formation of the Buddhist Temples Districts
'Teramachi, Jiin - syusekichi' of Fukui Castle Town in the Edo Period.

河端 し の ぶ*
(福井大学大学院工学研究科)

藤田 勝 也**
(福井大学工学部)

1. はじめに (研究の背景・目的)

本研究の目的は、近世福井城下における寺町・寺院集積地の景観形成とその地域性について明らかにすることである。

江戸時代、各藩の政治・商工業・交通の中心として城下町が発展した。大名の居住する城の周囲には上級武士や中級武士の屋敷、その外側の街道や水路に沿って職人や商人の住む町人地、さらに下級武士の居住地や寺院・神社がその外縁に配置された。城下町では、寺院を計画的に配置した地区を一般に寺町という。寺町は宗教勢力を、城郭を中心とする城下町に組み込んだものであった。

福井城下においても福井城を中心に町割が施され、城郭から遠ざかるにつれ、上級武家屋敷→中級武家屋敷→水路→町人地→寺院、というように区分されていた。広い境内を持つ寺院は、要塞的役割をもつものとして城下町の一番外に配置された。

2. 研究方法

近世において複数の寺院を計画的・人為的に配置した地区が「寺町」だが、福井城下には「・・・寺町」と名のつく地域の他に「・・・寺町」と名の付かない地域があり、後者にも寺院集積している場所が数カ所ある。本研究では、両者を総称して「寺院集積地」¹⁾と呼ぶ。

本研究では以下に挙げる資料をもとに寺院の所在地を把握し、寺院集積地の変容をみる。

絵図1 万治2年(1659)以前『福居御城下之絵図』(図1)

本図は福井城下の全貌を描いたものである。この絵図より古い絵図は他にも存在するが、城下町全体を描いた絵図はこれが最初のものと考えられる。原図の裏に「寛文九己酉年四月十五日」の記載があるが、小林健寿郎氏や松原信之氏²⁾らがこの絵図の年代推定を行い、万治2年(1659)以前の絵図と考えている。万治2年(1659)の大火で類焼移転する西別院・興宗寺・真宗寺・千福寺・昭護寺などを描くのがその根拠である。

絵図2 貞享2年(1685)『福居御城下之絵図』(図2)

貞享3年(1686)の大法直前の絵図で、万治2年(1659)・寛文9年(1669)の大火後の城下の様子がわかる。

絵図3 正徳3年(1713)『福井御城下之絵図』(図3)

寺院集積に変化はみられないが貞享の大法後のため、侍屋敷・足軽屋敷地が空き地になり城下町の衰退がわかる。

絵図4 文化3年(1806)『福井御城下之絵図』(図4)

(キーワード: 寺院 寺院集積地 福井城下 寺町 近世 景観)

*Shinobu Kawabata (Graduate School of Engineering, Fukui University)

**Masaya Fujita (Faculty of Engineering, Fukui University)

享保6年(1721)松岡藩五万石は併合されて福井藩は25万石から30万石となった様子がわかる。松岡藩からの寺院が福井城下に移転している。

地図1 明治19年(1888)『福井市街全図』(図5)

明治期に入ると、国家機関が近代地図の作成に力を注ぐ一方で、新しい地方行政制度・同区画の成立に呼応して、府県当局でもかつての国絵図に替わるものとして、当該府県の管内地図や県・郡単位の行政区画図などを作成している。城下絵図に替わる新しい都市図の作成は主に民間サイドで進められており、本図は民間人の手によってつくられた福井県最初の市街地図である。

史料1 貞享2年(1685)『御城下絵図別記寺社』(松平文庫)

貞享2年の福井城下絵図作成のため記され作成されたものであり、宗旨・山号・院号・本末関係・所在町が記載されている。

史料2 正徳3年(1713)『御城下絵図別記寺社』(松平文庫)

貞享2年と同様に正徳3年の福井城下絵図作成のため記され作成されたものであり、宗旨・山号・院号・本末関係・所在町が記載されている。

史料3 安永初年(1772~76)『福井城下寺社号誌』

成立年代は不明であり、安永元年(1772)以降の成立であることは判明するが、記載されている曹洞宗恵雲寺が安永5年(1776)に三国に寺号移転しているの、安永元~5年(1772~76)までの成立と考えられる。宗旨・所在町・本末関係が記載されている。

以上の資料から、石場寺町・西御堂寺町・田原寺町・外中嶋寺町・勝見村・大谷派福井別院・九十九橋北・足羽山北・足羽山東・足羽山南(いずれも仮称)の計10カ所の寺院集積地が読み取れる(表1~10参照)。

3. 福井城下における寺院集積地の沿革

(1) 城下成立~万治2年以前(図1)

福井城下町(寺院集積地)の形成期は大きく分けて、柴田勝家が越前国主となったときと結城(松平)秀康が福居に転封したときの2回である。前者の柴田勝家は天正3年(1575)に越前国主となり足羽川北岸北庄に築城し、すでに廃墟となっていた一乗谷(朝倉氏が町を形成していた)や近辺の寺社などを北庄に移転させる。その後柴田勝家が落城したのち、丹羽長秀・長重・堀秀政・秀治、小早川秀秋、青木秀以らが20年余り北庄城主となり統治する。この間も城主の寺地寄進による新たな寺院創設や多くの寺院移転がみられる。

結城(松平)秀康が慶長6年(1601)に結城(現茨城県)より転封、越前松平藩が成立する。彼は北庄城の再建に着手し、城は柴田勝家の北庄城本丸より北へ移動し(現在地)、慶長11年(1606)に完成する。この際にもわずかであるが、寺院移転がみられる。結城(松平)秀康の結城からの転封により、家臣・寺社など多くが北庄に移り³⁾、寺社地域が拡大化する。

城下成立から万治2年までに一乗谷から次の寺院が転入している。(日)妙性寺、(日)常楽寺、(日)教徳寺、(天台律)宝蔵寺、(曹)慶宗寺、(日)本妙寺、(天台律)長運寺、(日)妙観寺、(浄土)安養寺、(浄土)清源寺、(天台律)全龍寺、(天台律)光照寺、(天台律)西厳寺、(天台律)蓮台寺、(日)顕本寺、(日)妙経寺、(天台律)西念寺、(真・本)教重寺。また結城から(曹)金西寺、(曹)安穏寺、(曹)乗国寺、(真・大谷)本証寺、(真・大谷)長久寺、(臨)華蔵寺、(日)関東妙国寺、(真言)医王寺、(曹)考顕寺、(真言)常福院が移転し、さらに(曹)茂林院、(真・大谷)西念寺、(曹)恕想院の寺院が創建され、福井城下各地に配置されている。⁴⁾

(2) 万治2年、寛文9年の大火後(図2)

万治2年(1659)春、現在の柴田神社付近の組屋敷から出火し大火⁵⁾となり、現在の大名広路から片町・呉服町一帯を焼き尽くす。城西の町屋と城北の町屋との境に西御堂(本願寺派福井別



凡例

	石場寺町		勝見村		足羽山東
	西御堂寺町		大谷派福井別院		足羽山南
	田原寺町		九十九橋北		
	外中嶋寺町		足羽山北		

図1. 万治2年（1659）以前『福居御城下之絵図』（絵図1）にみる寺院集積地



図2. 貞享2年(1669)『福居御城下之絵図』(絵図2)にみる寺院集積地



図3. 正徳3年(1713)『福井御城下之絵図』(絵図3)にみる寺院集積地



図4. 文化3年(1806)『福井御城下之絵図』(絵図4)にみる寺院集積地



図5. 明治19年(1888)『福井市街全図』(地図1)にみる寺院集積地

院)をはじめとする多くの寺院が並んでいたが、城下周辺部へ移転している。すなわち、(真・本)西御堂、(真・本)興宗寺、(真・本)本覚寺、(真・本)千福寺、(真・本)照護寺、(真・本)真宗寺が城北に移転して西御堂寺町を形成し、田原寺町には(真・本)光明寺、(真・本)勝樂寺、(真・本)法円寺、(真・本)正善寺、(真・本)玄照寺、(真・本)宋源寺、(日)本承寺が移転元は不明だが、貞享2年までに当地に移転し集積している。また、(真・本)浄佛寺、(真・大谷)浄得寺、(真・大谷)称念寺、(日)妙蔵寺が足羽山南寺院集積地区に移転している。

万治2年(1659)の大火から10年後の寛文9年(1669)春、城下の東南部勝見(現在の勝見一丁目)の永雲寺(現廃寺)から出火、これも大火となる。この大火は福井城下の大部分を焼失するに至り、天守閣も含めて福井城は全焼する。大火後、城之橋寺町と勝見寺町の(曹)寛天寺、(浄土)大仙寺、(真言)専命院、(曹)茂林院、(曹)宗福寺、(曹)恵雲寺、(曹)金西寺、(日)妙性寺、(日)妙長寺が城下東端の外中嶋に移転、外中嶋寺町を形成する。

城之橋寺町跡地には侍屋敷を転入させ、侍屋敷があった所は火除地として菜園地をつくる。この2回の大火の後、福井城下では寺町を名のつく石場寺町・西御堂寺町・田原寺町・外中嶋寺町が配置された状態となる。

(3) 貞享3年の大法後(図3)

貞享3年(1686)の貞享の大法⁶⁾により、武家屋敷や足輕組屋敷の多くが空き地となりやがて畑地となる。これに伴い、福井藩に残った藩士も禄高は半減し、武士層を消費者とする商人達も困窮し城下町は衰微するが、寺院集積に大きな変化はみられない。

(4) 松岡藩との併合状況(図4)

享保6年(1721)、福井藩七代松平吉邦の死後、その兄の松岡藩主松平昌平が宗昌と改名して九代福井藩主を継承すると、松岡藩五万石は併合されて福井藩は25万石から30万石となり、松岡藩士も続々と福井城下に移転してくる。それに伴い寺院の移転がみられ、松岡より福井城下には石場寺町に(日)宗円寺、足羽山南に(日)泰遠寺、(臨)緑成寺が移転している。

この後も大火は相次ぎ1765年(明和2)から幕末までに500軒以上焼失する大火は9件あり、風水害もあり一部に寺院の移転がみられるが、大きな変化はない。

(5) 明治(図5)

明治元年(1868)神祇官の再興および太政官布告による神仏分離令により福井城下でも神仏分離が行われ、神社となるところや廃絶する寺院がある。また、明治4年(1874)の廃藩置県に伴い、福井城下では侍屋敷の開放や濠の一部埋め立てが行われ、これらの土地に官庁、学校などが雑居したため城下町の景観は大きく変化する。

4. 各寺院集積地の景観

ここでは、表1~10をもとに各寺院集積地の景観について検討する。

まず石場寺町(表1)は、古くから多くの寺院が集積しており、寺院の入れ替えがあるものの安定している。

西御堂寺町(表2)は、万治2年(1659)の大火後に柳町にあった西御堂を中心とした浄土真宗本願寺派の寺院が揃って移転し、寺院集積地区を形成している。現在でも本願寺派の寺院が多く存在する。

田原寺町(表3)は、西御堂寺町と同様に万治2年の大火後に形成された寺院集積地区である。

外中嶋寺町(表4)は、寛文9年(1669)の大火後に造られ、万治2年以前の絵図には寺院の集積は見られない。表4によると、一時期多くの寺院集積がみられたが(最大14件)、多くの寺院が他の集積地に移転している(現在では、わずか3件)。移転する年は寺院により様々であるが、土地が空いた後もこの地に寺地を定める寺院は全くない。この理由は城下の西は街道があり古くから栄えており、城下東の端にあった外中嶋寺町地区は発展することなく縮小せざるを得なかったのではないかと考えられる。

表 1. 石場寺町寺院集積地区（現 福井市九十九 2 丁目付近）

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(曹) 宗徳寺			○	○	○	○	○	○		戦災後廃絶
(曹) 慶宗院	永禄3(1560)・ 一乗谷	慶長6(1601)一乗谷より当地へ	○	○	○	○	○	?		昭和20(1945)戦災後永春寺に合併
(日) 正法寺			○	○						元禄7(1694)に住職の不備が露顕して寺地没収
(曹) 金百寺		外中嶋寺町より元禄8(1696)正法寺跡地へ			○	○	○	○		昭和12(1937)撤新町へ
(日) 誓行寺			○	○						元禄7(1694)に住職の不備が露顕して寺地没収
(日) 妙性寺	延徳年中(1499~ 92)・一乗谷	外中嶋寺町より元禄8(1696)誓行寺跡地へ			○	○	○	○		昭和10(1935)乾新町へ
(曹) 安種寺	応安年中(1368~ 75)・結城	慶長7(1602)当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(日) 常楽寺	文明2(1470)・ 丹生郡	慶長6(1601)一乗谷より当地へ	○	○	○	○	○	○	○	一乗谷に創立したという伝説あり
(日) 成円寺	弘治元(1555)・ 当地		○	○	○	享保3 (1718)頼内 寺に改称	○	○	○	
(日) 本経寺	貞享元(1684)・ 当地			○	○	○	○	?	○	
(曹) 總光寺	天正11(1583)	一時小松(石川県)に移るが、承応年中(1652~55)当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(日) 教徳寺	文安年中(1444~ 49)・一乗谷	慶長年間(1596~1615)一乗谷より当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(曹) 臨林寺			○	○	○					安永初年には寺名がみられず、宝暦10(1760)に淨寺号として今庄村へ
(曹) 永春寺			○	○	○	○	○	○	○	
(日) 本寿寺			○	○						元禄7(1694)に住職の不備が露顕して寺地没収
(曹) 寛天寺	崇福寺内	外中嶋寺町より元禄8(1696)本寿寺跡地へ			○	享保初期 (1716~36) 南条郡へ				南条郡への移転は寺号のみの移転の可能性
(日) 宗円寺	天和元(1681)・ 吉田郡松岡	元文5(1740)松岡より当地へ				○	○	○		昭和20(1945)戦災後(日)成円寺に合併
(天台) 宝蔵寺		慶長年間(1596~1615)一乗谷より当地へ	○	○	○	明和7 (1770)寶雲 寺に改称	○	?		明治35(1902)大火災後移転
信行寺							○	?		

[表記] 表中の項目について、「万治2年以前(図1)」は、万治2年(1659)以前『福居御城下之絵図』(絵図1)に基づく。以下「貞享2年(図2)」は貞享2年(1669)『福居御城下之絵図』(絵図2)、「正徳3年(図3)」は正徳3年(1686)『福井御城下之絵図』(絵図3)、「安永初」は史料3『福井城下寺社号誌』、「文化3年(図4)」は文化3年(1806)『福井御城下之絵図』(絵図4)、「明治19年(図5)」は明治19年(1888)『福井市街全図』(地図1)に依った。なお「現在」は、『都市地図 福井県1 福井市』(参考文献)に依った。

表2. 西御堂寺町寺院集積地区(現 福井市松本4丁目付近)

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(真・本)西 御堂		天正13(1585)御町→寛永19(1643)焼失 し再建しようとするが万治2大火後当 地へ		○	○	○	○	明治8 (1875) 西別 院に改称	○	
(真・本)本 興宗 寺	建治2(1276) 坂井郡	後に加賀に移り、慶長6(1601)御町 へ(※)→万治2大火後当地へ		○	○	○	○	○	○	
(真・本)本 覚寺	正嘉2(1258) 足羽郡	加賀→城主堀秀政の頃御町へ→万治2 大火後当地へ		○	○	○	○	○	○	
(真・本)千 福寺	寛正5(1465)	足羽郡→寛永年中(1624~44)越下片 町へ→万治2大火後当地へ		○	○	○	○	○		
(真・本)原 腹寺		一向一揆の時代加賀・越中を転々とし、 城主堀秀政の頃御町へ→万治2大火 後当地へ		○	○	○	○	○	○	往古天台宗で貞治2(1363)に改宗
(真・本)本 向寺支坊	貞享年中(1684~ 88)				○	○	○	○		
(真・本)真 宗寺	正嘉2(1258) 横立(現鯖江)	寛永5(1628)御町へ→万治2の大火 後当地へ		○	○	○	○	○	○	昭和20(1945)戦災後昭和37(1962)鯖 江へ
(日)妙法寺			○	○	○	○	○	○		昭和32(1957)旗新町へ
(浄土)一乗 寺			○	○	○	○	○	○		昭和36(1961)みどり町へ
(時)乗久寺			○	○	○	○	○	?		昭和10(1935)円山麓久へ
(真・大谷) 徳勝寺					○	寛延3(174 9)了勝寺に 改称	○	○		昭和16(1941)飲之島へ

表3. 田原寺町寺院集積地区(現 福井市田原2丁目付近)

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(真・本)光 明寺	天和2(1682)・当 地			○	○	○	○	○	○	
(真・本)勝 楽寺				○	○	○	○	○	○	
(真・本)法 円寺				○	○	○	○	○	○	
(真・本)正 覺寺	天正5(1578)			○	○	○	○	○		往古天台宗で蓮和上人に帰依した後浄土 真宗に改宗
(真・本)玄 照寺				○	○	宝暦5(1755) 願照寺に改称	○	○	○	往古天台宗で蓮和上人に帰依した後文明 5(1474)浄土真宗に改宗
(真・本)宗 願寺				○	○	○	○	○	○	東御堂内より移転して本願寺末となる
(日)本承寺	延宝8(1690)			○	○	○	○	?		
(真言)普賢 院		慶長6(1601)当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(浄土)大仙 寺					○	○	○	○		
(真・大谷) 願乗寺		明和3(1766)九十九橋北から当地へ				○	○	?		

表4. 外中嶋寺町寺院集積地区（現 福井市日之出4丁目付近）

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(曹)寛天寺	崇福寺内	寛文9大火後当地に隣から寺地を寄進される		○	元禄8 (1696) 石橋 寺町地区へ					
(浄土)大仙 寺	永享9(1437)・ 鯖後	寛永元(1624) 高田(現新編)より勝 見村へ→寛文9大火後当地へ		○	貞享3大徳後 田原寺町地区 へ					
(真言)専命 院				○	○	寛延元 (1748) 丹生 野へ				
(真言)宝塔 院		結城より当地へ		○	○	○				江戸中期、寂靜院と併合
(真言)宗寿 院		結城より当地へ		○	○					元文元(1736)頃、饒町にあった (真)御蔵寺と寺地を交換する、併合 するという説もあり
(真言)御蔵 寺						○				
(曹)茂林院	慶長6(1601)・ 城之端寺町	寛文9大火後当地へ		○	○	○	○	○	○	
(曹)崇福寺	永正4(1507)・ 達佐越村	慶長年間(1596~1615) 城之端寺町に 移転→寛文9大火後当地へ		○	○	○	○	○	○	
(曹)恵雲寺		寛文9大火後当地に隣から寺地を寄進 される		○	○	○	安永5 (1776) 三国 へ			
(曹)金西寺		慶長6(1601) 結城より城之端寺町へ →寛文9大火後当地へ		○	元禄8 (1696) 石橋 寺町地区へ					
(日)妙性寺	延徳年中(1489~ 92)・一乗谷	慶長年間(1596~1615) 城之端寺町に 移転→寛文9大火後当地へ		○	元禄8 (1696) 石橋 寺町地区へ					
(日)妙長寺	慶長7(1602)・ 勝見村	寛文9大火後当地へ		○	○	○	○	○	○	
(曹)久昌寺				○	○	○	○	文化年中 (1803~)に 三国へ		江戸中期には寺号のみで廃寺間然と なったので、文化年中に寺号移転
(真・大谷) 西念寺	寛永10(1633)・ 当地		○	○	○	○	享和3 (1803) 志比 口へ			享和元(1801)大火後移転
(曹)清光院				○	○	正徳末(〜 1716) 塚木田 へ				

表5. 勝見村寺院集積地区（現 福井市御幸1丁目・勝見1丁目付近）

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(曹)衆国寺	寛吉元(1441)・ 結城	慶長6(1601) 結城家菩提寺として当 地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(真・大谷) 本証寺		結城とともに当地へ	○	○	○	○	○	○		
(真・本)真 楽寺	明倉氏滅亡後家臣 が出家後創立	慶長年中に城之端寺町へ→寛文11(1 671) 大火後当地へ		○	○	○	○	○	○	往古天台宗で寛文年中(1661~73)に 浄土真宗に改宗
(真・大谷) 長久寺		慶長6(1601) 結城より当地へ	○	○	○	○	○	○	○	往古天台宗で寛和上人に帰依した後浄 土真宗に改宗

表6. 福井別院寺院集積地区（現 福井市花月1丁目・照手1丁目・2丁目、
順化2丁目、春山2丁目付近）

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(真・大谷) 福井別院本瑞 寺	文明3(1471)	慶安年中(1648~52)に当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(臨)宝泉寺	元和4(1819)			○	○	享保9 (1724)置泉 寺に改号	○	○		
(日)關東 妙国寺		慶長6(1601)結城より当地へ	○	○	○	○	○	○		
(浄土)清源 寺	明応年中(1492~ 1501)・一乗谷	天正元(1573~1601)一乗谷より当地 へ	○	○	○	○	○	○	○	創建時は天台真盛宗、慶長年中に浄土 真宗に改宗
(真・本)妙 楽寺	応永22(1418)		○	○	○	○	○	○	○	
(天台宗)全 龍寺		慶長18(1611)一乗谷より当地へ	○	○	○	○	○	?		
(天台宗)光 照寺	大同年中(800~ 810)	慶長18(1611)一乗谷より当地へ	○	○	○	○	○	?	○	
(天台宗)西 厳寺	寛仁年中(1017~ 21)	慶長18(1611)一乗谷より当地へ	○	○	○	○	○	?	○	
(真・本)浄 徳寺		天文年中(1532~55)水越村から北庄 下寺町→万治2の大火後当地へ		○	○	○	○	○	○	
(真言)匠王 寺		結城より当地へ	○	○	○	○	○	?	○	
(真・大谷) 慶福寺		近世初順吉田郡から北庄西子安町へ→ 寛政6(1784)現地へ					○	?		往古天台宗、寛政6(1784)浄土真宗 に改宗
(真・大谷) 善林寺	本瑞寺境内	安政元(1854)大火焼後当地へ						?	○	

表7. 九十九橋北寺院集積地区（現 福井市照手1丁目・2丁目付近）

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(浄土)法興 寺	慶長年中(1249~ 56)	天正初年(1573頃)当地へ	○	○	○	○	○	○		
(日)本祐寺	永徳元(1558)		○	○	○	○	○	○	○	
(真・大谷) 順光寺		延宝2(1674)吉江(現鶴江)より当 地へ		○	○	○	○	?	○	
(日)本妙寺	永正17(1520)・ 一乗谷	朝倉氏滅亡後北庄寺町へ→長濱町を 経て当地へ	○	○	○	○	○	○		昭和20(1945)戦災後(日)常楽寺と合 併する
(日)妙蔵寺	寛正元(1490)		○	寛文元 (1661)足羽 山前地区へ						万治2(1659)の大火後寛文元 (1661)足羽山前地区へ
(浄土)陸松 寺		延宝2(1674)吉江(現鶴江)より妙 蔵寺跡地へ		○	○	○	○	○		明治35(1902)大火焼後平岡山へ
(天)長運寺	弘治3(1567)・ 一乗谷	朝倉氏滅亡後当地へ	○	○	○	○	○	○	○	創建時は寺号極楽寺、当地に移転して 後万治2(1659)以前に現号に改称
(天)西方寺			○	○	○	○				
(浄土)成覚 寺			○	○	○	○	○	○	○	
(真・大谷) 順泉寺			○	○	○	明和3 (1766)田原 町に移転				往古真言宗で文明3(1472)に浄土真 宗に改宗、明和3(1766)田原町に移 転

表 8. 足羽山北寺院集積地区（現 福井市足羽 1 丁目付近）

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(日) 妙國寺	天文2 (1533)		○	○	○	○	○	○		
(日) 妙観寺	文明18 (1486) 一乗谷	天正4 (1576) 当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(日) 妙永寺			○	○	○	○	○	○	○	
(浄土) 安養寺	文明5 (1473) 一乗谷	天正3 (1575) 当地へ	○	○	○	○	○	○		
(浄土) 浄光院	慶長12 (1607)		○	○	室永6 (1709) 蓮正 寺に改号	○	○	○	○	
(曹) 心月寺	寛政4 (1463)	天正元 (1573) 丹生郡へ→慶長6 (1601) 当地へ	○	○	○	○	○	○		
(福) 龍洞寺				○	○					寛保3 (1743) 南条郡に寺号移転
(曹) 慈想院	天正11 (1584)		○	○	○	○	○	○		
(天) 妙貞寺			○	○	○	○				
(曹) 泰蔵院				○	○	○	○			昭和3 (8?) (1928) 三方郡に移転
(真・大谷) 真浄寺	元禄年中 (877~ 85)		○	○	○	○	○	○	○	往古天台宗文明3 (1471) 遷知に帰依した後浄土真宗に、明治37 (1904) 木田増北館へ
(真・大谷) 徳行寺			○	○	○	○	○	○	○	
(臨) 華藏寺	応永2 (1395) 結城	慶長7 (1602) 結城より当地へ		○	○	○	○	○	○	
(真・高田) 仙福寺				○	○	○	○	○		往古天台宗、建長元 (1249) 浄土真宗に改宗

勝見村（表5）は小規模ではあるが、城下成立の頃から現在でも集積の規模がほとんど変わらず寺院が存在する。大谷派福井別院（表6）は、一乗谷や結城から移転してきた寺院が多く存在し、集積は城下成立後と考えられる。現在でも多くの寺院が存在する。九十九橋北（表7）は、古くから多くの寺院が存在するが、現在では半数以下しか当地に寺地を定めていない。足羽山北（表8）は、古くから多くの寺院が存在しており、寺院の転出はあるが近代以降は変化ない。足羽山東（表9）は、一時期多くの寺院が存在するが、現在では半数以下である。足羽山南（表10）は、寺院数が多く集積の範囲が広く密集していない。

以上3節、4節で以下の事実が明らかになった。

- ①城下東部の外中嶋寺町寺院集積地区は一時期寺院が多く存在したが、100年ほどで寺院数が激減する。
 - ②他所からの寺院の移転は寺院集積しているところに寺地を定める場合が多い。
 - ③寺院集積は近世にその形成を終えており、その後移転による集積の変容や規模が小さくなっているが、現在までほとんど変化ない。
- ②については、同じ種類（ここでは寺院）のものが集まるという傾向の現われなのではないかと思われる、また③については、寺院が移転する理由は様々であるが、大規模な移転事業がなかったためではないか。

5. 宗派による寺院集積のあり方

- ・宗派別による寺院集積のあり方をみるため、絵図1～4を宗派ごとに色分けした（図6～9）。

表9. 足羽山東寺院集積地区（現 福井市左内町、毛矢3丁目付近）

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(天) 西光寺	延徳元(1489)・近江	文明6(1474)福井開保へ→天正14(1586)当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(日) 願本寺	明応年中(1492~1501)・一乗谷	天正5(1577)一乗谷より足羽山東麓→慶長7(1602)幸願寺創建のため当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(日) 妙経寺	享禄元(1528)・一乗谷	天正5(1577)足羽山北麓へ→慶長12(1607)浄光院創建のため当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(日) 善慶寺	弘治2(1556)		○	○	○	○	○	○	○	
(天) 西念寺	文明年中(1498~87)・一乗谷	天正6(1578)当地へ	○	○	○	○	○	○	○	
(日) 善福寺	永徳元(1381)・坂井郡大年	慶長9(1604)当地へ	○	○	○	○	○	?	○	
(真言) 梅本院			○	○	○	○	○			
(曹) 考願寺		慶長6(1601)結城より当地へ	○	○	○	○	○	○		
(真言) 常福院		慶長6(1601)結城より当地へ	○	○	○	○	○	?		
(真言) 寂静院			○	○	○	○	○			明治維新後廃絶
(真言) 宝珠院			○	○	○	?	○			
(真・本) 浄願寺					○	○	○	○	○	
(真・本) 円流寺					○					安永元年(1772)に(天)光願寺持分の淨寺となり、文政9(1826)坂井郡浄光寺に寺号移転
(真・本) 教重寺	文明年中(1498~87)・一乗谷	慶長年中(1598~1615)に当地へ			○	宝暦5(1755)教住寺に改称	○	天保12(1841)教重寺に改称	○	
(真・本) 瑞応寺				○	?	○				

4枚の絵図を通してわかることは、以下の通りである。

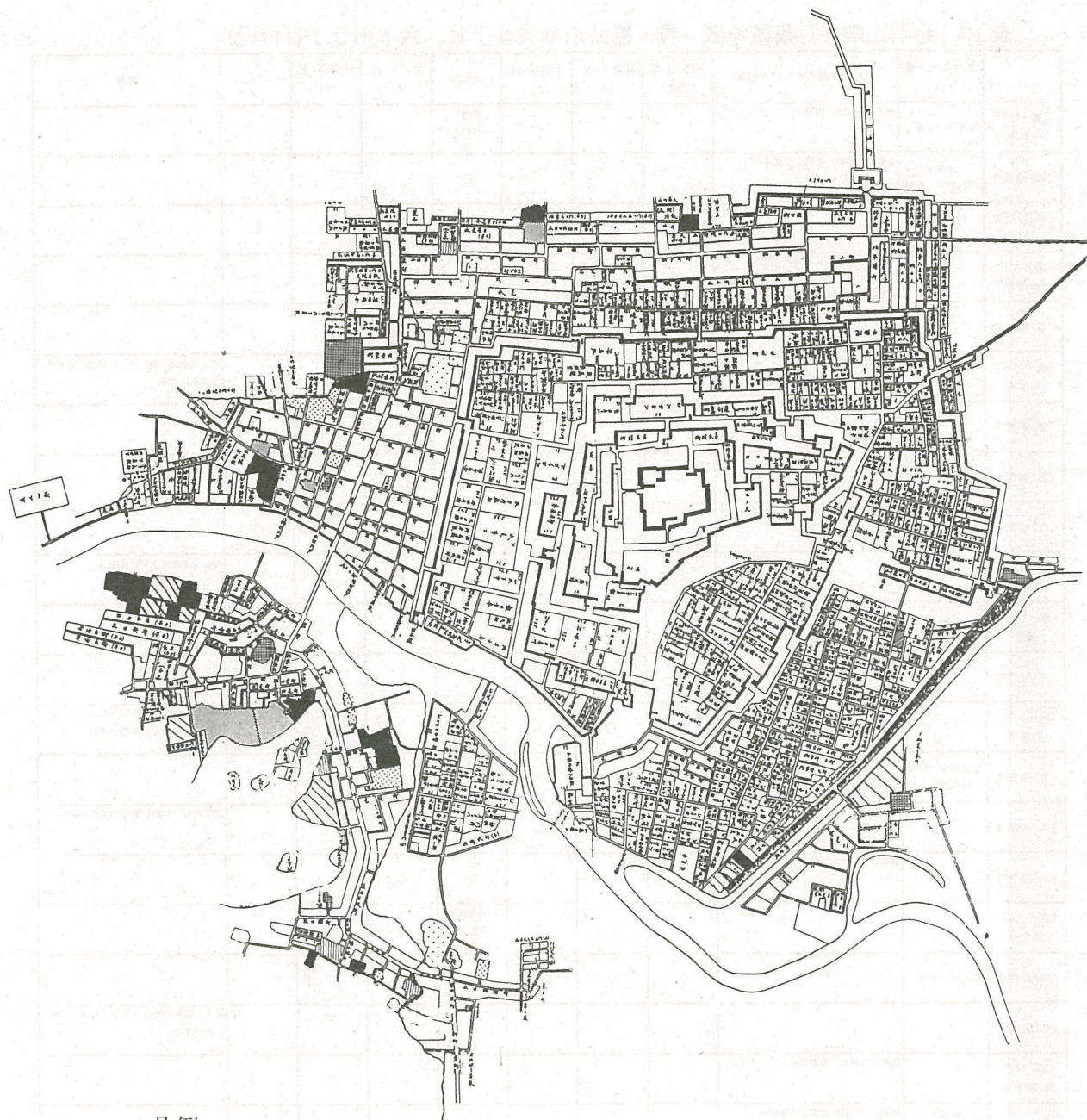
- ・石場寺町は寺院の入れ代わりはあるが、時代を通して日蓮宗と曹洞宗の寺院が集積している。
- ・曹洞宗の寺院は石場の他に勝見、足羽山東に多い。
- ・福井には曹洞宗本山永平寺があるが、曹洞宗の寺院は全体的に少ない。
- ・城下の南部は多くの宗派の寺院が混在している。
- ・旧仏教の寺院は散在している。
- ・浄土宗、天台宗、真言宗の寺院は九十九橋北（現 花月、照手）に多い。
- ・万治2年の大火後から城下北部の西御堂寺町、田原寺町に浄土真宗本願寺派の寺院が密集している。集積度が高く、結束しており、これは福井が「真宗王国」といわれる反映ではないかと考えられる。

6. おわりに

本研究では、福井城下における寺院集積地について考察した。福井城下では、寺院集積は江戸時代にその形成を終えており、規模は大きくないが、現在でも寺院集積はあることが明らかになった。また、福井城下における浄土真宗本願寺派の寺院の集積度が高いのは、「真宗王国」の反映と考えられる。なお、宗派による寺院集積の形成の要因・背景については、今後の課題としたいと思う。

表 10. 足羽山南寺院集積地区（現 福井市毛矢3丁目、西木田3丁目付近）

	創立年代・場所	当地に移転するまでの経緯	万治2以前 (図1)	貞享2(図 2)	正徳3(図 3)	安永初	文化3(図 4)	明治19(図 5)	現在	備考
(真・山門 徒) 専照寺	永享7 (1435)	天正10 (1582) 現地へ	○	○	○	享保9 (1724) に南 下				
(臨) 縁成寺	永享9 (1437)・松岡	寛保元 (1741) 松岡より当地へ				○	?	○	○	
(真言) 持宝 院	天平宝字元 (787)		○	○	○	○	○	○	○	
(真・大谷) 淨得寺		近世初頭に福井藩々岡→天正19 (1591) 同角原→元和2 (1616) 北庄 下馬殿町→万治2 (1659) 大火後当地	○	○	○	○	○	○	○	
(日) 永照寺			○	○	○	○	○	○		
(真・大谷) 称念寺		慶長7 (1602) 北庄寄籠町へ→万治2 (1659) の大火後当地へ		○	○	○	○	○	○	往古天台宗で蓮如上人に帰依した後浄 土真宗に改宗
(曹) 泰清院			○	○	○	○	○	○		
(日) 妙源寺	享禄元 (1528)		○	○	○	○	○	○		
(日) 妙蔵寺	寛正元 (1460)	万治2 (1659) の大火後九十九橋北よ り寛文元 (1661) 当地へ		○	○	○	○	弘化3 (1846) 本社 寺に改称	○	
(真言) 金剛 院			○	○	○	○	○			神仏分離後木田神社となる
(真・本) 長 慶寺			○	○	○	○	○	○	○	
(天) 普門院				○	○	○	○			
(真・大谷) 教重寺			○	○	?	宝暦5 (1755) 教受 寺に改称	?	天保12 (1841) 教重 寺に改称	○	往古真言宗、文明年中 (1469～87) 蓮 如上人に帰依した後浄土真宗に改宗
(曹) 通安寺	慶安年中 (1648 ～52)		○	○	○	○	○	○		
(日) 淨願寺			○	○	○					天明年度 (1781) 専照寺境内へ移転
(天) 蓮台寺		慶長16 (1611) 一乗谷より当地へ	○	○	○	○	○			
(真・大谷) 正光寺			○	○	○	宝暦10 (1760) 正願 寺に改称	○	○		
(天) 自性院	慶長10 (1606)		○	?	?	○	○	○		
(日) 真源寺						○	○			幕末の頃廃寺同様となり、寺号・寺地 のみが残る
(真・山門 徒) 専光寺		延享3 (1746) 足羽郡阿北村より当地 へ				○	○	○		
(日) 泰達寺	寛文元 (1661)・松岡 郷貫町	寛保元 (1741) 松岡より当地へ				○	○	○		
(真・大谷) 徳願寺						○	○	○	○	



凡例

- | | | | | | |
|--|-----|--|----------|--|----|
| | 浄土宗 | | 天台・天台律宗 | | 時宗 |
| | 曹洞宗 | | 真言宗 | | |
| | 日蓮宗 | | 浄土真宗本願寺派 | | |
| | 臨済宗 | | 浄土真宗大谷派 | | |

図6. 万治2年（1659）以前『福居御城下之絵図』（絵図1）の宗派別分布



図7. 貞享2年(1669)『福居御城下之絵図』(絵図2)の宗派別分布



図8. 正徳3年(1713)『福井御城下之絵図』(絵図3)の宗派別分布

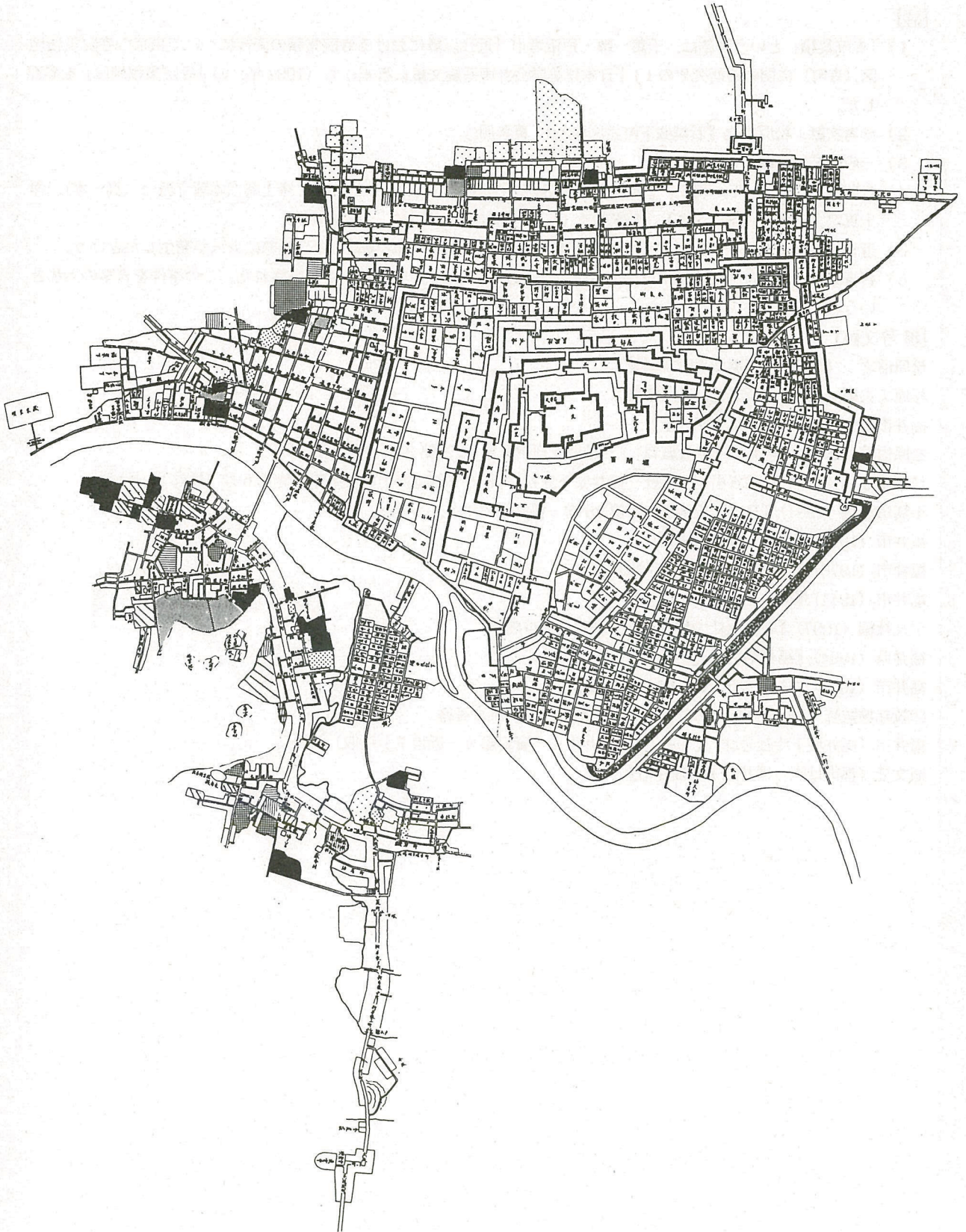


図9. 文化3年(1806)『福井御城下之絵図』(絵図4)の宗派別分布

【註】

- 1) 「寺院集積」という用語は、千葉一輝・戸沼考市「近代以降における寺院集積の変容について東京の寺院集積地区（寺町）に関する研究その1」『日本建築学会計画系論文集』第491号（1997年）の「寺院集積地区」を参照した。
- 2) 参考文献、松原信之『若越城下町古図集』10頁参照。
- 3) 一般に結城引越しという。
- 4) 日蓮宗→（日）、天台律宗→（天台律）、曹洞宗→（曹）、浄土宗→（浄土）、浄土真宗本願寺派→（真・本）、浄土真宗大谷派→（真・大谷）、臨済宗→（臨）、真言宗→（真言）、と略称した。
- 5) 近世福井では春先、山から下りてくる東南の風が原因（フェーン現象）で、頻繁に大火が発生したという。
- 6) 貞享3年（1686）突然幕命により福井藩は50万石から25万石に石高が半減された。この事件を貞享の大法という。

【参考文献】

- 松原信之（1957）『若越城下町古図集』
杉原丈夫編（1980）『新訂越前国名蹟考』
福井市旭公民館編（1981）『旭区史』
松原信之（1966）「福井城下寺社資料」『若越郷土研究』第11巻第3号（通巻58号）
松原信之（1952）「一乗谷引越し寺社—福井城下寺社資料—」『若越郷土研究』第7巻第6号（通巻36号）
小葉田淳編（1981）『日本歴史地名大系第18巻 福井県の地名』平凡社
福井市（1976）『新修 福井市史Ⅱ』
福井市（1976）「新修 福井市史（付録）」
福井市（1941）『稿本 福井市史 下』
平凡社編（1997）『寺院神社大辞典 近江・若狭・越前』
福井県（1994）『福井県史 通史編3 近世1』
福井市（1991）『福井市史 資料編10 近現代1』
印牧邦雄監修（1986）『市町村で見る 福井県の歴史』東京書籍
福井市「福井城下寺社号誌」（1994）『福井市史 資料編9 近世7』所収
照文社『都市地図 福井県1 福井市』